

2018年8月4日(土)

12:20 ~ 17:00



Isabella Lucy Bird  
(1831-1904)

イサベラ

川西町時田の虚空蔵山からの眺め

本年は明治維新から150年。日本の近代像がさまざまな角度から論じられている。

維新から10年後のこと、一人の英国人女性、イサベラ・バードは江戸時代の面影が残る日本を訪れ、庶民の日常生活を美醜も含めありのままに描いた(『日本奥地紀行』原典1880刊)。この中で、彼女は上杉鷹山の治政、およそ半世紀を経た置賜の地を、山に囲まれ、明るく輝く松川に灌漑され、美しさ、勤勉、安楽さに満ちた魅惑的な地、東洋のアルカディア(桃源郷)と評した。

今回のシンポジウムでは、イサベラ・バードの旅をたたき台にして、どう読み解き、活かし地域の発展に繋げていくかを検討するとともに日本の近代像についても考える場としたい。

場所：伝国の杜(米沢市上杉博物館)2階 大会議室

12:20 ~ 特別上映『みちのくの鬼たち-鬼剣舞の里-』

13:00 ~ ゼミナール開催

全体司会 阿部 宇洋(山形大学学術研究院講師)

コーディネート 佐野 賢治(神奈川大学教授)

■ 基調講演

神崎 宣武(旅の文化研究所長)

■ 研究報告

佐々木長生(福島県民俗学会長)

原 淳一郎(米沢女子短期大学准教授)

渋谷 光夫(東北文教大学客員教授)

山本 志乃(旅の文化研究所研究主幹)

■ パネルディスカッション

■ 懇親会(要・予約)

参加申し込み不要

(先着100名)

資料代 500円

\*講師を交えての交流会を開きます。

17:30 ~ (要予約・予約は農文研まで)

場所 招湯苑 会費 4,000円

共催・米沢市教育委員会・(公財)ポラ伝統文化振興財団

後援・置賜民俗学会、川西町文化財保護協会、

日本常民文化研究所、旅の文化研究所、山形大学

\*問合わせ先 (公財)農村文化研究所 \* 〒992-0093 米沢市六郷町西藤泉 71-32

E-mail noubunken@gmail.com TEL/FAX 0238-37-5362



近代日本の他者像と自画像

バードの見た置賜